

第4回

和漢医薬学会若手研究者フォーラム

プログラム／要旨集

会期：2023年8月25日(金)

会場：富山大学 およびオンライン (Zoom)

主催：和漢医薬学会次世代を担う若手研究者の会

後援：和漢医薬学会

○概要

和漢医薬学会次世代を担う若手研究者の会ではこれまで、学術大会の中で分野の垣根を超えた交流を目的にシンポジウムを企画してきましたが、限られた時間の中で十分な議論ができていたとは言い難い状況でした。そこで若手研究者がより活発な議論を行う場として「和漢医薬学会若手研究者フォーラム」を企画し、Web開催ではありましたが第1回フォーラム(20年度)の50名程度を皮切りに、各会100名程度の若手研究者による活発な議論が交わされました。本フォーラムの設置理念に基づき、本年度も『第4回和漢医薬学会若手研究者フォーラム』を実施致します。なお、フォーラムは現地開催に加え、オンラインによる参加を加えたハイブリッド開催を予定しております。また今回は、富山大学和漢医薬学総合研究所民族薬物資料館のご協力をもとに同見学会を予定しております。

○会場案内

富山大学 杉谷キャンパス 和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館 3階セミナー室
〒930-0194 富山市杉谷 2630 番地

<アクセス>

公共交通機関

路線バス(乗車時間30分):JR 富山駅南口バスターミナル3番乗り場から「16系統 富大附属病院循環」行き乗車、「富山大学附属病院」停留所下車後、徒歩4分

自家用車でお越しの方

「教職員学生用駐車場」ゲートより入構し、ゲートで駐車券をお取りください。民族薬物資料館周辺にご駐車いただけます。受付で駐車券をお見せいただければ、無料駐車券をお渡しします。なお、指定外の「外来患者用駐車場」に駐車されますと、この駐車券を利用しても無料になりませんのでご注意ください。

○参加者の皆様へ

1. 参加費は無料です。
2. 会場, Zoom サイトは13時30分よりオープンします。参加登録時のメールリンクよりご入室下さい。
3. 通常の学会と同じく、演題の撮影・録音は禁止します。また、ミラー配信も禁止します。
4. 参加にあたって、年齢制限はありません。ただし、質疑に関しては若手研究者が優先的に回答できるように、ご配慮をお願いします。
5. 服装に特に決まりはありません。

※参加中の注意

- 表示名を氏名+所属に変更して下さい。
(例: 中嶋聡一@NPR 医薬資源研究所)
- マイクはオフにして下さい。
- 質問以外でチャット機能は使わないで下さい。
- オンラインから質問のある方は、チャット機能を用いて氏名、所属、簡単な質問内容 (例: ○○実験の方法について) を入力してください (送信先は全員)。質疑の時間になりましたら座長が指名しますので、その際はマイクのミュートを解除して質問して下さい。
- Zoom のバージョンにはご注意願います。アップデートされていない方は事前に最新のバージョンへのアップデートをお願いします。また、ブラウザ版では互換性の問題で必要な機能を使用できない可能性があるため、Zoom はなるべくインストール版をお使い下さい。

○発表者の先生へ

1. 発表は、プレゼンテーション 7 分・質疑応答 8 分です。時間厳守をお願いします。
2. 発表は PowerPoint で行います。オンライン発表の場合は、画面下にある「共有」をクリックし、共有したいファイルをお選び下さい。その後、スライドショーを開始して下さい。発表が終了しましたら、画面上部に表示される「共有の停止」をクリックして下さい。
3. 画面サイズは 4:3 で作成して下さい。
4. 演者の交代などがある場合は、早急に事務局 [076-434-7615, 担当: 楊 (ヤン)] までご連絡下さい。
5. 発表は座長の指示に従って下さい。
6. 筆頭演者は、和漢医薬学会の「医薬学研究の利益相反 (COI) に関する指針」 (<https://www.wakan-iyaku.gr.jp/riekisohan/>) の細則に従い、利益相反の状態の有無にかかわらず申告が必要です。形式は自由ですが、タイトルの次スライド (2 枚目) で COI について開示して下さい。また、すべてのスライドに、「録画・転載・転用禁止」の文言を記載して下さい。

富山大学杉谷キャンパスマップ

至 富山西IC



南門

U5: 民族薬物資料館(会場)



正門



至 富山市街

○プログラム

全体進行:安藤広和 (金沢大学)

14:00- 開会の辞

堀江 一郎 (山口東京理科大学)

14:05-15:25 プレナリーレクチャー

座長:中嶋 聡一 (NPR 医薬資源研究所)

多様性が織りなすシナジー研究に向けて

高田 和幸
京都薬科大学 教授
シナジーラボ ラボ長

15:25-15:35 (小休憩)

15:35-15:40 授賞式

プレゼンター:中嶋 聡一 (NPR 医薬資源研究所)

振興賞 堀江 一郎 (山口東京理科大学)

15:40-16:10 自論異論・若手討論会 (一般演題) セッション A

座長:吉野 鉄大 (慶應義塾大学)

A-1 基礎と臨床の橋渡し研究 ～がん患者の緩和ケアにおける抑肝

散の可能性～

迫田 凌太
名古屋市立大学大学院 薬学研究科 生薬学分野

**A-2 黄連の安定供給を見据えた佐渡でのキクバオウレンにおける成
分含量の相関性**

谷手 紗也香
奈良県薬事研究センター 研究推進係

16:10-16:40 自論異論・若手討論会 (一般演題) セッション B
座長: 楊 熙蒙 (富山大学)

**B-1 オオツヅラフジ(*Sinomenium acutum*) 由来化合物による
Wnt/ β -catenin 経路の阻害を介したがん幹細胞の駆逐**

岡山 真也
京都薬科大学 公衆衛生学分野

**B-2 エビスグサ (*Cassia obtusifolia*) スプラウト含有成分の分析
および機能性評価**

村岡 卓和
山陽小野田市立山口東京理科大学 薬学部 薬学科 生薬・漢方分
野

16:40- 閉会の辞

吉野 鉄大 (慶應義塾大学)

プレナリーレクチャー

多様性が織りなすシナジー研究に向けて

高田 和幸

京都薬科大学・シナジーラボ

5年前に京都薬科大学に新設された統合薬科学系は、この4月にシナジーラボとなりました。統合からシナジーへと、集って相乗効果を生み出すラボへとその発展が期待されています。

これまで私は、薬学部に籍を置き「生物(ヒト)」と「くすり」について考えてきました。研究畑に身を置くきっかけは脳(中枢神経系)への好奇心でしたが、その好奇心が恩師や多くの同僚、後輩、学生さんとの縁をもたらし、海外で二度の研究生活を経験する機会まで与えてくれました。この中で私の研究には「神経変性疾患」、「脳免疫」、「再生医療」、「発生」がキーワードとして生まれ、それぞれが繋がって統合的・包括的な一つの研究領域が形をなしてきました。また、統合薬科学系では「新たな生命現象の発見から次世代医療の創造」をモットーに研究に取り組み、「天然有機化合物」や「生体イメージング」といった研究領域の横への広がりも生まれ、今後の研究を発展させるうえでの足場の一つを構築しています。これに伴い「くすり」に対する私の捉え方も、大きく変化しています^{注1)}。

近年、人を取り巻く環境やその中にある医療は目まぐるしく変化しています。特に「多様性」については、分子から細胞まで、研究対象として注目されており、また、教育や生活環境でも重要な検討課題となっています。私自身も多様性を織りなす一要因との認識から、集う人の個性や多様性を紡ぐことが、シナジスティックな研究を生み出すための鍵と考えるようになり、この要素を取り入れた研究室の運営を試みています。

PIになり初めて気づく未熟ゆえの苦労や、克服すべきウィークポイントもありますが、反対に、学生さんの成長を含めた共同研究者と分かち合える喜びはますます大きなものとなっています。現在は、PIなって初めて知った楽しみややりがいに満ちた毎日を過ごしています。

本講演では、研究履歴を振り返りながら、これまでの研究内容はもちろんのこと、そこから学んだ大切にすべきことや、反省点などをお話しする予定です。本講演がこれから研究者を目指す方々にとって、少しでも参考になり、研究モチベーションの維持・向上に繋がれば幸いです。

新たな生命現象の発見から次世代医療の創造へ



若手研究者の交流・ステップアップの場

注1)“細胞もくすり”という認識を持ち、細胞性医薬品の開発を指向した研究に取り組むようになり
ました。シナジーラボでは「化合物 x 細胞 = 次世代のくすり」という方程式で次世代の薬剤
師が活躍できる再生医療を基盤とした新しいフィールドの開拓にも挑戦していく予定です。

【略歴】

1999年3月 京都薬科大学薬学部生物薬学科 卒業
2002年3月 京都薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程 修了
2004年4月 日本学術振興会特別研究員(DC2)
2005年3月 京都薬科大学大学院薬学研究科博士後期課程 修了
2005年4月 京都薬科大学 病態生理学教室 研究員
2006年4月 京都薬科大学 病態生理学教室 助手
2007年4月 京都薬科大学 病態生理学分野 助教
2014年5月 SIgN, A*STAR^{注2)} 客員研究員
2015年4月 京都薬科大学 病態生理学分野 准教授
2018年4月 京都薬科大学 統合薬科学系 教授
2023年4月 京都薬科大学 統合薬科学研究施設 シナジーラボ 教授
現在に至る

2000年4月から2001年3月は休学期間:アメリカ合衆国 Nathan S. Kline Institute,
Prof. Duff Karen 研究室, リサーチアシスタント

^{注2)}Singapore Immunology Network, Agency for Science, Technology and Research,
Dr. Florent Ginhoux 研究室

【受賞歴】

2005年 第9回神経伝達物質研究会, 神経伝達物質研究助成優秀賞
2005年 第3回武田科学振興財団薬科学シンポジウム, 国際シンポジウム研究奨励
2006年 International Junior Investigator Award, The 6th Annual Meeting of International
College of Geriatric Psychoneuropharmacology
2010年 Travel Fellowship, 13th International Conference on Alzheimer's Disease
2013年 平成25年度日本薬学会奨励賞

第4回若手研究者フォーラム組織委員会

オーガナイザー

- 中嶋聡一（NPR 医薬資源研究所）
- 吉野鉄大（慶應義塾大学医学部漢方医学センター）
- 安藤広和（金沢大学医薬保健研究域薬学系）
- 楊 熙蒙（富山大学和漢医薬学総合研究所）

運営事務局

慶應義塾大学医学部漢方医学センター

主催

和漢医薬学会次世代を担う若手研究者の会

後援

一般社団法人 和漢医薬学会

賛助会員(50音順)

- ・株式会社 Felicidad
- ・救心製薬株式会社
- ・小太郎漢方株式会社
- ・ナチュラルプロダクトリサーチ合同会社